コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年8月5日

新型コロナパンデミックにより小児への定期的ワクチン接種率が30年ぶりに低下

【松崎雑感】

日本国憲法前文に「われらは、いずれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならない」というくだりがあります。コロナパンデミックで、低中所得国の症にワクチン接種率が低下しました。高所得国ではほとんどそのようなことはないようです。しかし、日本が良ければよいというのではありません。世界全体を見据えて、可能な限り、人々の健康を守るためにサポートをする必要があります。それを考えるなら、毎年220兆円以上の軍事費を世界の国々が使ってよいのでしょうか？子どもたちへの定期的ワクチン接種は、これらの軍事費の1000分の1で出来るでしょう。

松崎道幸　道北勤医協ながやま医院　matsuzaki-m@dohoku-kinikyo.or.jp

新型コロナパンデミックにより小児への定期的ワクチン接種率が30年ぶりに低下

Guglielmi G. Pandemic drives largest drop in childhood vaccinations in 30 years [published online ahead of print, 2022 Jul 26]. *Nature*. 2022;10.1038/d41586-022-02051-w. doi:10.1038/d41586-022-02051-w

昨年だけで、2500万人の子どもが麻疹、ポリオなどのワクチンで流行を予防できる疾患の予防接種を受けそこなった

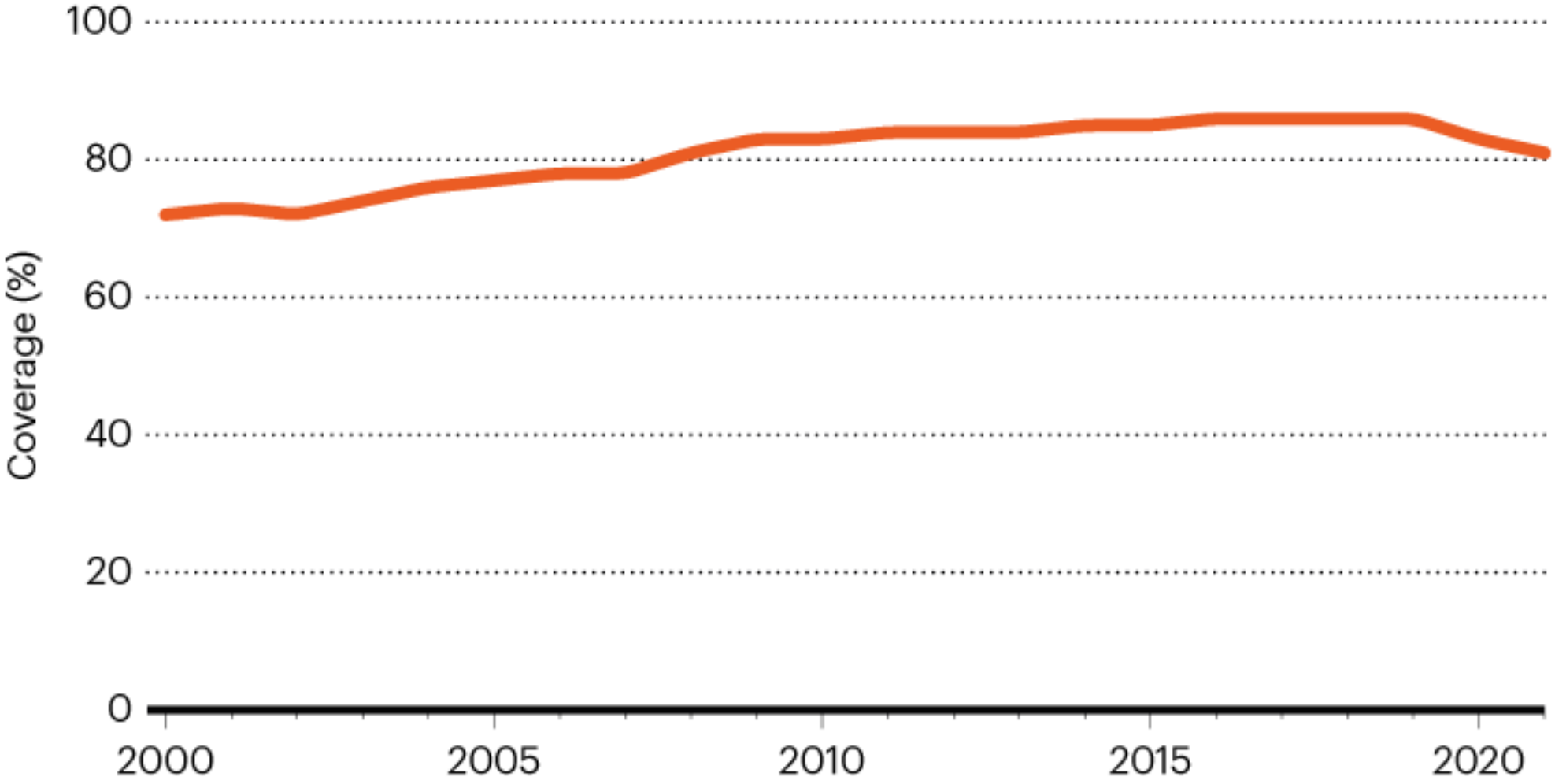
最近30年間で初めて子どもに対するエッセンシャルな予防接種率が低下した。

WHOとUNICEFは、ジフテリア・破傷風・百日咳のワクチン（DTP3）を完了した子どもの比率が2019年と比較して2021年に5%低下し、カバー率が81%となった（次スライド参照）。

DTP3はワクチンカバー率のマーカーとされている。これらのワクチンを受けていない子どもはその後の様々な定期的ワクチン接種率が悪くなることが分かっている。

小児ワクチン接種率の低下

ジフテリア・破傷風・百日咳の三種混合ワクチン（DTP3）接種率が新型コロナパンデミック後に5%低下して81%となった。DTP3の接種率は小児のワクチン接種率全体を反映するマーカーである



©nature

2021年に麻疹などのワクチンを受け損ねた子どもが2500万人おり、これらの疾患のアウトブレイクが懸念される。

「もしこの傾向が続くなら、予防できたはずの病気によってアウトブレイクが起き、多くの子どもの命が奪われる」とWHOの担当者は本誌に語った。

2011年から2018年までの世界の小児定期ワクチン接種率は85%前後を維持していた。2020年から2021年にかけて、低中所得国を中心に接種率が急減した。

2021年にDTPを一回も受けなかった子供は1800万人に達した。これは特にインド、ナイジェリア、インドネシア、エチオピア、フィリピンで著明だった。

この期間に高所得国ではカバー率が95%から94%に減っただけだった。

わずかな低下率でも、世界全体としては、アウトブレイクがどこで発生しても不思議でないとWHO担当者は述べた。

未接種

このままでは2030年までに定期的ワクチン接種を受けない子どもの比率を50%以下に減らすというグローバルゴールが達成できない恐れがある。

WHOによれば、世界全体で、2021年にはしかワクチン初回接種をしなかった子供は2500万人にのぼるという。2019年より500万人増えた。

2022年1～4月に世界中で5万人近くの麻疹が発生した。これは前年同期の2倍だった。

2月と5月にはマラウィとモザンビークで30年ぶりに野生ポリオのアウトブレイクが発生した。

HPVワクチン接種率が低下していることもWHOとUNICEFの懸念となっている。

これらは、新型コロナパンデミックによる医療資源投入方向の変化、製造、流通、ロジの混乱、ロックダウンおよび経済的困窮などによってもたらされたものと考えられる。

インドなどでワクチン接種を促進する活動が始まっているという明るい動きがある。

しかし、インドのNPOインド公衆保健基金の疫学者ギリダール・バブー氏は、パンデミックからの経済再建のために、医療ケアへの投資が減らされることを憂慮してこう語った。

「すっかり遅れてしまった子どもたちへの定期的ワクチン接種活動を再開することが当面の優先課題だ。子どもたちの命を救う活動を止めるわけにはかない！」と。